

令和5年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	文化財保護事業				担当課名	産業振興課	
					担当係名	文化遺産活用係	
(予算書コード)	07-01-07-10-01						
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営	委 託			
事業の開始・終了	年 月 ~		年 月	(事業に始期又は終期がある場合に記入)			
根拠法令等の名称	文化財保護法、町文化財保護条例						

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	国指定天然記念物「八島ヶ原高層湿原」はじめ、国・県・町指定文化財や国登録文化財を適切に保存・管理し、良好な状態で次世代へ継承するとともに、積極的な情報発信を通じて、町民が文化財に親しみ、理解を深める機会を充実させる。						
事業の活動成果	指標名	指標の算出方法	単位		令和4年度	令和5年度	令和6年度
(事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指定文化財・登録文化財の件数	指定・登録により保存を図っている、指定・登録文化財の件数をカウント	件	目 標	66	67	68
				実 績	67	67	
				達成率	101.5%	100.0%	

【投入されたコスト・業務量】

		令和4年度決算		令和5年度決算		令和6年度予算	
事業費	事業費 A	5,689 千円		3,751 千円		6,141 千円	
	うち 会計年度任用職員人件費	人	千円	人	千円	人	千円
	正規職員人件費 B	0.50 人	3,284 千円	0.50 人	3,374 千円	0.50 人	3,453 千円
事業費合計 C (A+B)		8,973 千円		7,125 千円		9,594 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円	935 千円	千円
		県の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		町の借入	千円	千円	千円	千円	千円
		その他	850 千円	950 千円	千円	800 千円	千円
	うち 使用料・手数料 D		千円	千円	千円	千円	千円
一般財源 (町の負担)		8,123 千円		6,175 千円		7,859 千円	
受益者負担率 (D/C)		0 %		0 %		0 %	

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性	B	町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか 町以外では行えない
公平性	A	受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか 適切である
効率性	A	予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか 適切である
達成度	B	事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由) 目標値どおりである 災害や火災等による滅失はなかった。また、新たな指定物件はなかった。

総合評価	現状維持	文化財保護法の趣旨に基づき、文化財の適切な保存・管理に努めることを継続していく。国登録文化財の下駄スケートは、本年度博物館の常設展示を拡充し活用を図ることができた。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	現状維持	

令和5年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	博物館の活動				担当課名	産業振興課	
					担当係名	文化遺産活用係	
(予算書コード)	07-01-06-12-01・14-01						
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営	委 託			
事業の開始・終了	年 月 ～		年 月		(事業に始期又は終期がある場合に記入)		
根拠法令等の名称	博物館法、町博物館条例						

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	地域博物館として、地域住民が地域への理解を深め、地域を自慢に思う心を育み、地域の歴史文化を探究する場として、展示や講座などの事業展開を図る。あわせて、下諏訪町を訪れる観光客の皆様にもこの地域の魅力を伝え、歴史文化を体感していただくような文化観光に繋げていく。						
事業の活動成果	指標名	指標の算出方法	単位		令和4年度	令和5年度	令和6年度
(事業の実施によりどのような状態にしたいか)	利用者数(年間入館者数)	入館者の人数をカウント	人	目 標	5,000	4,200	4,500
				実 績	4,613	5,097	
				達成率	92.3%	121.4%	

【投入されたコスト・業務量】

		令和4年度決算		令和5年度決算		令和6年度予算	
事業費	事業費 A	927 千円		2,533 千円		1,635 千円	
	うち 会計年度任用職員人件費	人	千円	人	千円	人	千円
	正規職員人件費 B	0.50 人	3,284 千円	0.50 人	3,374 千円	0.50 人	3,453 千円
事業費合計 C (A+B)		4,211 千円		5,907 千円		5,088 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	377 千円	千円	千円	千円	千円
		県の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		町の借入	千円	千円	千円	千円	千円
		その他	千円	千円	千円	千円	千円
	うち 使用料・手数料 D		千円	千円	千円	千円	千円
一般財源 (町の負担)		3,834 千円		5,907 千円		5,088 千円	
受益者負担率 (D/C)		0 %		0 %		0 %	

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性 町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか	B 町以外では行えない	町立博物館として、設立意義及び博物館法の規定による使命に基づき、町が行うものであるが、実際の事業実施にあたっては地域住民や関係団体との協働、及び関係機関との連携により行っている。
公平性 受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A 適切である	広い範囲の方々に来館、参加を呼びかけ、費用負担については、地域の歴史文化の学習の場であることから必要最低限の負担としている。
効率性 予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A 適切である	本年度はゴールデンウィーク期間の特別展、秋・冬の2回の企画展を開催し、限られた人員の中、効率的に準備を進めて質の高い展示を行うことができ、図録製作、オリジナルグッズ製作も行い、良い成果が上がった。
達成度 事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由)	A 目標値以上である	特別展、企画展ともに好評を博し、年間で5000人を超える入館者数となり、令和5年度の目標値を上回る成果が上がった。

総合評価	現状維持	令和4年度に引き続き今年度も活力のある博物館を目指して企画展に取り組み、展示図録の発行、ミュージアムグッズの開発なども手掛け、良い成果が上がった。さらに多くの方々に来館してもらえよう、質の高い企画展を開催するとともに、多くの方に喜んでいただける博物館づくりを目指す。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	拡 充	令和5年度も活力のある博物館づくりを目標に、図録製作やオリジナルグッズの製作にも取り組み良い成果が上がった。令和6年度もこの姿勢を維持していく。

令和5年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	博物館資料の保存整理				担当課名	産業振興課
					担当係名	文化遺産活用係
(予算書コード)	07-01-06-16-01					
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営			
事業の開始・終了	年	月 ~	年	月	(事業に始期又は終期がある場合に記入)	
根拠法令等の名称	博物館法、町博物館条例、文化財保護法、町文化財保護条例					

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	地域に残され、伝えられてきた貴重な文化遺産を広く収集し、整理保存することで、次世代へ引き継いでいくとともに、展示や事業等で活用できるよう、調査研究を通じて史料価値を高めていく。					
事業の活動成果	指標名	指標の算出方法	単位		令和4年度	令和5年度
(事業の実施によりどのような状態にしたいか)	資料整理数	資料カードを起票した数	枚	目 標	1,200	1,000
				実 績	680	780
				達成率	56.7%	78.0%

【投入されたコスト・業務量】

		令和4年度決算		令和5年度決算		令和6年度予算	
事業費	事業費 A	66 千円		66 千円		379 千円	
	うち 会計年度任用職員人件費	1.00 人	1,745 千円	1.00 人	913 千円	1.00 人	2,109 千円
	正規職員人件費 B	0.25 人	1,642 千円	0.25 人	1,687 千円	0.25 人	1,726 千円
事業費合計 C (A+B)		1,708 千円		1,753 千円		2,105 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		県の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		町の借入	千円	千円	千円	千円	千円
		その他	千円	千円	千円	千円	千円
	うち 使用料・手数料 D		千円	千円	千円	千円	千円
一般財源 (町の負担)		1,708 千円		1,753 千円		2,105 千円	
受益者負担率 (D/C)		0 %		0 %		0 %	

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性	B	町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか 町以外では行えない
公平性	A	受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか 適切である
効率性	A	予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか 適切である
達成度	C	事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由) 目標値以下である

総合評価	現状維持	令和5年度は岩波其残の作品群を中心に資料整理、調査・研究を行い、企画展に反映することができた。今後も、資料を選択して集中的に整理、調査・研究を行い、資料の価値を高め、より良く保存し、より良く活用できるよう取り組んでいく。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	現状維持	

令和5年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	博物館の維持管理				担当課名	産業振興課	
					担当係名	文化遺産活用係	
(予算書コード)	07-01-06-10-01						
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営	委 託			
事業の開始・終了	年 月 ~		年 月	(事業に始期又は終期がある場合に記入)			
根拠法令等の名称	博物館法、町博物館条例						

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	博物館は、資料の収集・保管・展示をする施設であることから、適切な環境下での資料保存が求められているとともに、地域の歴史文化の学習拠点でもあるため、利用者にとっての快適な環境づくりのため施設全体の適切な維持管理を行う。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		令和4年度	令和5年度	令和6年度
		維持管理に係る経費であることから指標設定は困難		目 標			
				実 績			
				達成率			

【投入されたコスト・業務量】

		令和4年度決算		令和5年度決算		令和6年度予算	
事業費	事業費 A	9,756 千円		9,224 千円		12,435 千円	
	うち 会計年度任用職員人件費	人	千円	人	千円	人	千円
	正規職員人件費 B	0.25 人	1,642 千円	0.25 人	1,687 千円	0.25 人	1,726 千円
事業費合計 C (A+B)		11,398 千円		10,911 千円		14,161 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		県の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		町の借入	千円	千円	千円	千円	千円
		その他	千円	千円	千円	2,651 千円	千円
	うち 使用料・手数料 D		1,254 千円	1,259 千円	1,338 千円	1,338 千円	千円
一般財源 (町の負担)		11,398 千円		10,911 千円		11,510 千円	
受益者負担率 (D/C)		11.002 %		11.539 %		9.448 %	

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性	B	町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか 町以外では行えない
公平性	A	受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか 適切である
効率性	B	予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか 検討の余地がある
達成度		事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由) 施設の日常的な維持管理であり、目標値の設定が困難であるため、指標設定はなじまない。

総合評価	拡 充	当面は不具合箇所の早期改善に努めるとともに、今後の改修に向けて優先順位等を検討していく。令和6年度は、館内の劣化箇所について修繕を実施する。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	現状維持	施設維持のために新規にエントランス等の館内の修繕を行うので拡充となった。

令和5年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	宿場街道資料館の維持管理				担当課名	産業振興課
					担当係名	文化遺産活用係
(予算書コード)	07-01-06-18-01					
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営	委 託		
事業の開始・終了	年 月 ~		年 月		(事業に始期又は終期がある場合に記入)	
根拠法令等の名称	博物館法、町博物館条例					

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	明治初頭に建築された歴史的建造物を適切に維持管理するとともに、宿場や街道の歴史文化を学ぶ施設として、利用者が快適に利用できるように維持管理に努める。						
事業の活動成果	指標名	指標の算出方法	単位		令和4年度	令和5年度	令和6年度
(事業の実施によりどのような状態にしたいか)	利用者数(年間入館者数)	入館者の人数をカウント	人	目 標	11,000	11,000	11,000
				実 績	11,249	12,310	
				達成率	102.3%	111.9%	

【投入されたコスト・業務量】

			令和4年度決算		令和5年度決算		令和6年度予算	
事業費	事業費 A		1,401 千円		1,086 千円		997 千円	
	うち 会計年度任用職員人件費		1.00 人	2,024 千円	1.00 人	2,003 千円	1.00 人	2,185 千円
	正規職員人件費 B		0.20 人	1,314 千円	0.20 人	1,350 千円	0.20 人	1,381 千円
事業費合計 C (A+B)			2,715 千円		2,436 千円		2,378 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	600 千円					
		県の負担	千円		千円		千円	
		町の借入	千円		千円		千円	
		その他	千円		千円		千円	
	うち 使用料・手数料 D		千円		千円		千円	
一般財源（町の負担）			2,115 千円		2,436 千円		2,378 千円	
受益者負担率（D／C）			0 %		0 %		0 %	

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性 町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割 分担できないか	B 町以外では 行えない	地域における歴史文化の学習拠点として、また文化遺産を活かしたまちづくりの拠点施設として、直営による運営が必要である。
公平性 受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A 適切である	社会教育法の精神に基き、博物館法及び博物館条例に則して、公平、適正に維持管理している。なお、当館の入館料は利用促進の観点から無料としている。
効率性 予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A 適切である	不具合箇所については早期の修繕を図り、歴史的建造物を適切に維持している。
達成度 事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由)	A 目標値以上である	コロナ後の人流の回復傾向に伴い多くの来館者があり、目標値を上回った。

総合評価	現状維持	良好な観覧環境を維持しながら、大勢の方に喜ばれる施設運営を図っていく。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	現状維持	

令和5年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	伏見屋邸の維持管理				担当課名	産業振興課
					担当係名	文化遺産活用係
(予算書コード)	07-01-06-22-01					
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営	委 託		
事業の開始・終了	年 月 ~		年 月		(事業に始期又は終期がある場合に記入)	
根拠法令等の名称	博物館法、町博物館条例					

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	国登録有形文化財の歴史的建造物を適切に維持、保存し、良好な状態で次世代に継承するとともに文化財の活用とおもてなしによる交流施設として、多くの方に親しまれるよう維持していく。						
事業の活動成果	指標名	指標の算出方法	単位		令和4年度	令和5年度	令和6年度
(事業の実施によりどのような状態にしたいか)	利用者数(年間入館者数)	入館者の人数をカウント	人	目 標	11,000	11,000	11,000
				実 績	7,424	8,217	
				達成率	67.5%	74.7%	

【投入されたコスト・業務量】

		令和4年度決算		令和5年度決算		令和6年度予算	
事業費	事業費 A	3,240 千円		6,799 千円		1,974 千円	
	うち 会計年度任用職員人件費	人	千円	人	千円	人	千円
	正規職員人件費 B	0.20 人	1,314 千円	0.20 人	1,350 千円	0.20 人	1,381 千円
事業費合計 C (A+B)		4,554 千円		8,149 千円		3,355 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		県の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		町の借入	千円	千円	千円	千円	千円
		その他	千円	3,335 千円	千円	千円	千円
	うち 使用料・手数料 D		千円	千円	千円	千円	千円
一般財源 (町の負担)		4,554 千円		4,814 千円		3,355 千円	
受益者負担率 (D/C)		0 %		0 %		0 %	

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性	B	町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか 町以外では行えない
公平性	A	受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか 適切である
効率性	A	予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか 適切である
達成度	C	事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由) 目標値以下である 令和3年度よりも入館者は多かったもののコロナの影響が続き、目標値に達しなかった。

総合評価	手法改善	街道歩きを楽しむ観光客の増加に期待しながら、展示会などの回数を増やすなど、多くの方に喜ばれる事業を展開していく。
	手法改善の内容	多くの方に入館してもらえるよう、工夫を凝らした展示会を実施していく。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	拡 充	入館者数が目標値に達しないため、手法を改善して事業に取り組むこととしたため。

令和5年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	今井邦子文学館の維持管理				担当課名	産業振興課
					担当係名	文化遺産活用係
(予算書コード)	07-01-06-20-01					
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営	委 託		
事業の開始・終了	年 月 ~		年 月		(事業に始期又は終期がある場合に記入)	
根拠法令等の名称	博物館法、町博物館条例					

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	江戸時代の面影を残す歴史的建造物を適切に維持管理するとともに、女性だけの短歌結社「明日香社」を創始した今井邦子を語り継いでいく短歌・文学の学習施設として、利用者が快適に利用できるように維持管理に努める。					
事業の活動成果	指標名	指標の算出方法	単位		令和4年度	令和5年度
(事業の実施によりどのような状態にしたいか)	利用者数(年間入館者数)	入館者の人数をカウント	人	目 標	4,000	4,000
				実 績	1,562	1,529
				達成率	39.1%	38.2%

【投入されたコスト・業務量】

		令和4年度決算		令和5年度決算		令和6年度予算	
事業費	事業費 A	1,939 千円		2,103 千円		1,828 千円	
	うち 会計年度任用職員人件費	人	千円	人	千円	人	千円
	正規職員人件費 B	0.20 人	1,314 千円	0.25 人	1,687 千円	0.25 人	1,726 千円
事業費合計 C (A+B)		3,253 千円		3,790 千円		3,554 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		県の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		町の借入	千円	千円	千円	千円	千円
		その他	千円	千円	千円	千円	千円
	うち 使用料・手数料 D		千円	千円	千円	千円	千円
一般財源 (町の負担)		3,253 千円		3,790 千円		3,554 千円	
受益者負担率 (D/C)		0 %		0 %		0 %	

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性	B	町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか 町以外では行えない
公平性	A	受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか 適切である
効率性	A	予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか 適切である
達成度	D	事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由) 目標達成は困難 コロナの影響が続き入館者数が伸びず、目標値に達しなかった。

総 合 評 価	手法改善	コロナの影響が収まらない状況で入館者が伸びなかったが、短歌がブームになっていることもあるので、常設展のリニューアルや、企画展などの開催を検討し、短歌ファンはじめ多くの方に喜ばれる事業を展開し、入館者増を図っていく。
	手法改善の内容	短歌ブームを捉えた展示替えを具体的に検討し実践する。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	手法改善	

令和5年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	七曜星社蔵の維持管理				担当課名	産業振興課	
					担当係名	文化遺産活用係	
(予算書コード)	07-01-06-24-01						
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営	委 託			
事業の開始・終了	年 月 ~		年 月	(事業に始期又は終期がある場合に記入)			
根拠法令等の名称	博物館法、町博物館条例						

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	明治期の製糸業興隆の面影を残す歴史的建造物を維持、管理し、良好な状態で次世代へ継承するとともに、まち歩きの休憩施設として親しまれるよう維持していく。						
事業の活動成果	指標名	指標の算出方法	単位		令和4年度	令和5年度	令和6年度
(事業の実施によりどのような状態にしたいか)		無人施設であることから利用者を指標とすることができない		目 標			
				実 績			
				達成率			

【投入されたコスト・業務量】

		令和4年度決算		令和5年度決算		令和6年度予算	
事業費	事業費 A	21 千円		22 千円		22 千円	
	うち 会計年度任用職員人件費	人	千円	人	千円	人	千円
	正規職員人件費 B	0.20 人	1,314 千円	0.25 人	1,687 千円	0.25 人	1,726 千円
事業費合計 C (A+B)		1,335 千円		1,709 千円		1,748 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		県の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		町の借入	千円	千円	千円	千円	千円
		その他	千円	千円	千円	千円	千円
	うち 使用料・手数料 D		千円	千円	千円	千円	千円
一般財源 (町の負担)		1,335 千円		1,709 千円		1,748 千円	
受益者負担率 (D/C)		0 %		0 %		0 %	

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性 町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割 分担できないか	B 町以外では 行えない	地域と利用者を結ぶ交流施設として、また文化遺産を活用したまちづくりの拠点施設として、直営による運営が必要である。
公平性 受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A 適切である	社会教育法に基づき、博物館法及び町博物館条例に則して、公平、適正に維持管理している。
効率性 予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A 適切である	不具合箇所について早期に修繕を図ることで歴史的建造物を適切に維持している。
達成度 事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由)		無人施設の維持管理であり、入館者数等の目標値を設定できないので指標設定になじまない。

総 合 評 価	現状維持	下諏訪の製糸業の歴史を語る数少ない建造物の一つであるので、適切な維持管理に今後も努め、次世代に伝えていく。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	現状維持	

令和5年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	星ヶ塔ミュージアムの維持管理				担当課名	産業振興課	
					担当係名	文化遺産活用係	
(予算書コード)	07-01-07-22-01						
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営	委 託	その他	指定管理	
事業の開始・終了	年 月 ～ 年 月 (事業に始期又は終期がある場合に記入)						
根拠法令等の名称	文化財保護法、町埋蔵文化財センター星ヶ塔ミュージアム条例						

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	国史跡「星ヶ塔黒曜石原産地遺跡」のガイダンス施設として、指定管理者と連携し適切な維持管理を図るとともに、町民や観光で訪れる多くの方々に、埋蔵文化財や黒曜石を通じた下諏訪の歴史を学習できる場として事業展開を図る。						
事業の活動成果	指標名	指標の算出方法	単位		令和4年度	令和5年度	令和6年度
(事業の実施によりどのような状態にしたいか)	利用者数(年間入館者数)	今昔間の入館者数をカウント	人	目 標	13,000	10,000	8,000
				実 績	7,646	8,937	
				達成率	58.8%	89.4%	

【投入されたコスト・業務量】

			令和4年度決算			令和5年度決算			令和6年度予算		
事業費	事業費 A		4,332 千円			3,366 千円			9,581 千円		
	うち 会計年度任用職員人件費		人	千円	人	千円	人	千円			
	正規職員人件費 B		0.20 人	1,314 千円	0.20 人	1,350 千円	0.20 人	1,381 千円			
事業費合計 C (A+B)			5,646 千円			4,716 千円			10,962 千円		
財源内訳	特定財源	国の負担	1,087 千円			千円			2,988 千円		
		県の負担	千円			千円			千円		
		町の借入	千円			千円			千円		
		その他	千円			千円			千円		
	うち 使用料・手数料 D		千円			千円			千円		
一般財源（町の負担）			4,559 千円			4,716 千円			7,974 千円		
受益者負担率（D／C）			0 %			0 %			0 %		

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性	C	協働を検討すべき 日常的な運営業務については指定管理者制度を導入している。施設の維持管理、展示等の事業開催については町が直営で実施。
公平性	A	適切である 一体的に運営される「しもすわ今昔館」として入館料を徴収。
効率性	A	適切である 指定管理者と町とで効率的に維持管理、運営している。
達成度	C	目標値以下である コロナの影響が続き目標値以下であったが、観光振興局の着地型旅行商品と連携した星ヶ塔遺跡ツアーとの連携を行い、誘致誘客に努めている。

総合評価	拡 充	観光振興局による星ヶ塔遺跡ツアーやその宣伝効果によって星ヶ塔遺跡への関心が全国的に高まっているので、この機会を捉えて、より多くの方に星ヶ塔遺跡を知っていただき、遺跡の魅力を感じ取ってもらえるように、展示解説の更新や展示品のリニューアルなどの事業展開を図っていく。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	手法改善	令和6年度は展示のリニューアルとしてデジタルサイネージを増設する。

令和5年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	星ヶ塔遺跡の管理				担当課名	産業振興課	
					担当係名	文化遺産活用係	
(予算書コード)	07-01-07-14-01						
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営	委 託			
事業の開始・終了	(事業に始期又は終期がある場合に記入)						
根拠法令等の名称	文化財保護法、町文化財保護条例						

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	国史跡「星ヶ塔黒曜石原産地遺跡」を適切に保存し、良好な状態で次世代に継承していくとともに、町観光振興局が開催する観光体験プログラムのツアー見学場所として、参加者が安全に見学できるよう日常的な整備を行う。						
事業の活動成果	指標名	指標の算出方法	単位		令和4年度	令和5年度	令和6年度
(事業の実施によりどのような状態にしたいか)		国指定文化財の保存・管理に係る経費であることから指標設定は困難		目 標			
				実 績			
				達成率			

【投入されたコスト・業務量】

			令和4年度決算			令和5年度決算			令和6年度予算		
事業費	事業費 A		120 千円			158 千円			240 千円		
	うち 会計年度任用職員人件費		人	千円	人	千円	人	千円			
	正規職員人件費 B		0.30 人	1,971 千円	0.30 人	2,025 千円	0.30 人	2,072 千円			
事業費合計 C (A+B)			2,091 千円			2,183 千円			2,312 千円		
財源内訳	特定財源	国の負担	554 千円			千円			千円		
		県の負担	千円			千円			千円		
		町の借入	千円			千円			千円		
		その他	千円			千円			千円		
		うち 使用料・手数料 D	千円			千円			千円		
	一般財源（町の負担）		1,537 千円			2,183 千円			2,312 千円		
受益者負担率（D／C）			0 %			0 %			0 %		

【事業の評価】

区 分		評 価	説 明
妥当性	町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか	A	法律で義務付けられている 文化財保護法による史跡星ヶ塔黒曜石原産地遺跡の管理団体は町であるため、町が管理しなくてはならない。
公平性	受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A	適切である 令和3年度から始まった町観光振興局による観光ツアーが令和5年度も継続され、県内外から多くの方が遺跡に訪れるようになり、全国的な幅広い地域の、幅広い世代の方に遺跡を楽しんでいただいている。
効率性	予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A	適切である 観光係や観光振興局にも協力を得て、効率的に現地の管理を行っている。
達成度	事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由)		草刈りや散策路の整備が主な業務内容であることから、目標値の設定が困難であるため、指標設定になじまない。

総合評価	現状維持	観光振興局による遺跡の観光ツアーで、大変多くの方が遺跡を訪れるようになり、遺跡の活用という面では大きな成果が上がってきた。今後も観光ツアーによる活用を継続できるよう、適切な遺跡の保存管理に努め、遺跡の魅力を十分に伝えられるよう維持を図っていく。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	現状維持	

令和5年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	柿蔭山房公開活用事業				担当課名	産業振興課	
					担当係名	文化遺産活用係	
(予算書コード)	07-01-07-16-01						
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営	委 託			
事業の開始・終了	年 月 ~		年 月	(事業に始期又は終期がある場合に記入)			
根拠法令等の名称	文化財保護法、町文化財保護条例						

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	町指定文化財「島木赤彦住居(柿蔭山房)」を適切に維持管理し、良好な状態で次世代に継承するとともに、歴史的建造物を学ぶ施設として、また歌人島木赤彦の業績を伝える学びの施設として公開活用を図る。					
事業の活動成果	指標名	指標の算出方法	単位		令和4年度	令和5年度
(事業の実施によりどのような状態にしたいか)	利用者数(年間入館者数)	入館者の人数をカウント	人	目 標	150	130
				実 績	133	47
				達成率	88.7%	36.2%

【投入されたコスト・業務量】

		令和4年度決算		令和5年度決算		令和6年度予算	
事業費	事業費 A	703 千円		546 千円		492 千円	
	うち 会計年度任用職員人件費	人	千円	人	千円	人	千円
	正規職員人件費 B	0.20 人	1,314 千円	0.20 人	1,350 千円	0.20 人	1,381 千円
事業費合計 C (A+B)		2,017 千円		1,896 千円		1,873 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		県の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		町の借入	千円	千円	千円	千円	千円
		その他	千円	千円	千円	千円	千円
	うち 使用料・手数料 D		千円	千円	千円	千円	千円
一般財源 (町の負担)		2,017 千円		1,896 千円		1,873 千円	
受益者負担率 (D/C)		0 %		0 %		0 %	

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性	B	町以外では行えない 町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか 町が所有する指定文化財であるため、町が管理・運営する。
公平性	A	適切である 受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか 町指定文化財として保護を図る一方で、定期的に施設内部を公開し、講座等の事業を行うことで活用を図り、町民や観光客の方々に訪れていただいている。
効率性	A	適切である 予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか 施設内部の公開に当たっては、シルバー人材センターへ開閉及び管理を委託することで業務の効率化を図っている。
達成度	D	目標達成は困難 事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由) コロナの影響が続き、入館者数が伸びなかった。

総合評価	縮 小	令和4年度は土日祝日に公開していたが、入館者数が少なく、プラス方向への伸びが期待できないことから、令和5年度は日曜日のみの公開とした。入館者が非常に少ない状況であるため、日曜日の定期公開を廃止し、見学希望の団体などへの随時公開のみの対応をしていく。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	縮 小	